

全日本学生バドミントン選手権大会 組み合わせ基準

2019年2月24日

全日本学生バドミントン連盟

全日本学生バドミントン選手権大会は、現行の公益財団法人日本バドミントン協会大会運営規程第5章第28条～32条を適用し、シードは団体戦・個人戦それぞれ原則として次の通りとする。

【団体戦の組み合わせ基準】

1. 次の①～④により、1～16までシードする。ただし、準決勝及び準々決勝が昨年度と同じ対戦は避けるものとする。その際、不都合が生じた場合は高ランキングから配慮する。
 - ①前年度本大会のランキング2位以内をランキングによりシードする。
 - ②前年度本大会のランキング4位以内を抽選によりシードする。ただし、昨年と同じ準決勝の対戦は避ける。
 - ③前年度本大会のランキング8位以内を抽選によりシードする。ただし、昨年と同じ準々決勝の対戦は避ける。
 - ④その年度開催の東日本学生バドミントン選手権大会・西日本学生バドミントン選手権大会のランキングにより抽選でシードする。東西の順番は最初だけを抽選で決めて、以下は東西の交番とする。
2. 各地区から推薦により出場している大学のうち、各地区下位9校（関東・関西；各下位2校、北海道・東北・中部・中四国・九州；各下位1校）から抽選により8校を8シード下に順次入れる。

※団体：32校；本戦 東日本インカレ8校・西日本インカレ8校
；推薦 各2校（北海道・東北・中部・中四国・九州）
各3校（関東・関西）

3. 以降自動抽選。

※1回戦は、東西の対戦となるように考慮する。また、昨年度と同一対戦は避ける。

※4ブロック内での地区バランス、特に参加校数が少ない地区のバランスを優先的に考慮する。

※関東と関西の地区バランスは、極端な偏りを除き原則として考慮しない。

【個人戦の組み合わせ基準】

1. 次の①～⑥により、1～32までシードする。ただし、準決勝及び準々決勝が昨年度と同じ対戦は避けるものとする。その際、不都合が生じた場合は高ランキングから配慮する。

①前年度本大会のランキング2位以内をランキングによりシードする。

②前年度本大会のランキング4位以内を抽選によりシードする。ただし、昨年と同じ準決勝の対戦は避ける。

③前年度本大会のランキング8位以内を抽選によりシードする。ただし、昨年と同じ準々決勝の対戦は避ける。

④直近の日本ランキング16位以内をランキングによりシードする。

⑤その年度開催の東日本学生バドミントン選手権大会・西日本学生バドミントン選手権大会の8位以内をランキングによりシードする。東西の順番は最初だけを抽選で決めて、以下は東西の交番とする。

⑥直近の日本ランキング32位以内をランキングによりシードする。

⑦その年度開催の東日本学生バドミントン選手権大会・西日本学生バドミントン選手権大会の32位以内をランキングによりシードする。東西の順番は最初だけを抽選で決めて、以下は東西の交番とする。

2. 各地区から推薦により出場している選手のうち、各地区の推薦人数の比率を基に、下位から「関東6名・関西4名・中部2名・北海道・東北・中四国・九州各1名の計16名」を選出し、第1から第8のシード下に入れる。シード下の位置は抽選により決める。シード下の極端な不都合は、抽選者間で入れ替える。

※個人：96名；本戦 東日本インカレ32名・西日本インカレ32名

；推薦 東日本16名（北海道3名・東北3名・関東10名）

西日本16名（中部4名・関西6名・中四国3名・九州3名）

3. 以降自動抽選

4. 日本バドミントン協会の要請で各種大会に派遣される場合及びその他の特別な理由により、当該選手が上記シード基準①～⑥に適応されない場合は、そのシードについて考慮する場合がある。

★1回戦は、東西の対戦となるように考慮する。また、昨年度と同一対戦は避ける。

★4ブロック内での地区バランス、特に参加校数が少ない地区及び参加人数の少ない大学のバランスを優先的に考慮する。

★関東と関西の地区バランスは、極端な偏りを除き原則として考慮しない。

以上

【組み合わせ会議の効率化】

※大会の主管学連は、組み合わせ会議当日までに組み合わせ原案「3案：団体戦は16シード、個人戦は32シード」を準備し、会議当日はその3案から「抽選」で最終案を選出し、その最終案を基に自動抽選後の★印等を調整して組み合わせを確定する。

※抽選はコンピュータでランダム関数を使用してもカードやダイス等を使用しても数学的確率は同等である。

➡原案作成方法（ランダム関数 or カード）は主管学連の判断による。

※主催学連である全日本学連は、レフェリー等サイン入りの原本をコピーした副本を各地区学連に配布する。